地域ガバナンスシステム・シリーズ No.12

「イギリスの資格履修制度ー資格を通しての公共人材育成ー」

小山善彦（著）、公人の友社 刊、定価（本体 1,000 円+税）、ISBN: 978-4-87555-554-4

イギリスでは 1979 年のサッチャー政権誕生以来、パートナーシップ型社会への移行が進められてきました。その過程で行政の外側に多様なパートナーシップ団体が組織され、民間企業への公共サービス業務の委託が進み、市民社会セクターの育成が図られてきました。この結果、多様な地域主体が公的機能を分担するようになり、すべてのセクター団体にとって、組織としての能力構築や人材育成が欠かせない時代になっています。

イギリス人の仕事の仕方、キャリアの考え方は、日本とかなり異なります。イギリス人は職場を頻繁に変えますし、セクターを超えた人材の流れも活発です。また、人生の途中でキャリアを変える人も多いです。したがって、銀行の職員が環境団体に職を求めたり、行政から市民団体へ移ったり、あるいは企業から市役所に転職するといったことが普通のこととして見られています。自分のキャリア実現にとってセクターにこだわる必要はなく、キャリア自体もいつでも変えられる時代になっているわけです。このように、日英の社会構造やライフスタイルに大きな違いがあります。しかし、違いが大きいだけに、日本での資格システムの設計や運用に参考にできる点もありそうです。日本でパートナーシップ型社会を目ざし、地域資格を運用するとなれば、これまでとは違った大胆な発想と多くの社会的実験が必要になるからです。

本書は、4 章構成です。まず第 1 章では「職能資格」を取り上げます。イギリスでは 2008 年 9 月から、新しい職能資格システムが動き出しました。利用者が使いやすいように、小さな学習単位での履修やクレジット（単位数）の蓄積および移転など、多くの改良が加えられました。この新しい資格システムのメリット、資格開発の方法、質保証のメカニズムなどを紹介します。つぎに、大学における社会人のための職能教育について説明します。イギリスの大学は、社会人が自らを再教育する場として広く活用されています。また、職能資格と同様に、小さな学習単位での履修プログラムも増えています。そうした最近の状況を、具体的な事例を踏まえて紹介します。3 章では、パートナーシップによって職能資格が開発された事例を紹介します。地域の公共団体、カレッジ、大学、職能団体、政府の助成機関がパートナーシップを組み、公共人材育成のための資格プログラムを開発した事例です。最終章は「資格を通しての公共人材」というテーマで、イギリスにおける公共人材育成と資格の関係についてまとめています。（「はしがき」より）

『地域ガバナンスシステム・シリーズ』
このブックレット・シリーズは、ガバナンス（協治）が基本となる参加・分権型地域社会をつくりうる制度を、理念と実践の両面から探求し確立するため、はばひろい読者に向けてさまざまな事例や課題を提起し共有することを目的として刊行するものです。

お申し込みは、下記に必要事項を記入の上、書店またはＦＡＸで。インターネットからも可能です。

注文書　小山善彦（著）、公人の友社 刊、定価（本体 1,000 円+税）、ISBN: 978-4-87555-554-4

書店印　　お名前　　様
ご住所
お電話番号　　ー　　ー
購入冊数

発行所：公人の友社　〒112－0002　東京都文京区小石川 5－26－8
TEL:03-3811-5701、FAX:03-3811-5795　URL:http://www.e-asu.com/kouji